

平成26年度公社等経営評価シート

公益財団法人むつ小川原漁業操業安全協会

1 法人の概要

26.7.1 現在

法人名	公益財団法人むつ小川原漁業操業安全協会	所管部課名	農林水産部水産局水産振興課
代表者職氏名	理事長 古川 健治	設立年月日	昭和58年10月19日
住所 (電話番号) (FAX番号)	〒039-3212 上北郡六ヶ所村大字尾駁字野附475番地 0175-72-2256 0175-71-1770	ホームページ アドレス	http://www13.ocn.ne.jp/~souankyo/
		E-mail アドレス	mutsu-souankyo1@mocha.ocn.ne.jp

資本金・基本金等		うち県の出資等額	県の出資等比率
資本金・基本金等	1,633,000 千円	500,000 千円	30.6 %

主な出資者等の構成 (出資等比率順位順)

氏名・名称	金額(千円)	出資等比率(%)	氏名・名称	金額(千円)	出資等比率(%)
1 日本原燃株式会社	1,000,000	61.2	6		
2 青森県	500,000	30.6	7		
3			8		
4			9		
5			10		

設立の目的・事業の目的

むつ小川原港の周辺海域において同港に出入港する船舶による漁業被害の発生を防止して漁業の操業の安全の確保を図るとともに、漁業の振興を図るための事業を行い、青森県及びむつ小川原港周辺海域の水産業の発展に寄与すること。

事業概要

(単位: 千円、%)

主要事業名	平成23年度	平成24年度	平成25年度	内容
事業1 漁業振興対策助成事業(公1)	17,100	25,260	24,914	漁業者・漁業後継者の育成、水産資源の回復と安定生産の確保を図る漁業振興のための事業等
全体事業に占める割合	62.40	93.78	93.17	
事業2 安全対策助成事業(他1)	99	40	82	むつ小川原港に出入港する船舶による漁業被害の発生を防止して漁業の操業の安全の確保を図るための啓発指導、情報連絡及び調査研究に関する事業
全体事業に占める割合	0.36	0.15	0.31	
事業3 救済助成事業(他2)				むつ小川原港に出入港する船舶による漁業被害(油濁によるものを除く。)であって、その原因者を特定できないものに対する救済金等の給付に関する事業
全体事業に占める割合				
その他の事業	10,204	1,634	1,743	事業管理費等
全体事業に占める割合	37.24	6.07	6.52	
全体事業(正味財産増減計算書: 経常費用)	27,403	26,934	26,739	

2 経営理念・経営目標

経営理念

協会の目的である漁業被害の防止、操業の安全確保、漁業被害の救済、漁業振興助成等を計画的に推進するため、安定した協会の事業経営をめざす。

経営目標

- ① 安全かつ有利な資金運用で、経営基盤の強化を図る。
- ② 管理費の節減を図る。
- ③ 漁業者のニーズを把握し、これに対応した事業展開を図る。
- ④ 職員の資質向上を図る。

3 代表者から県民の皆さまへ

- ① 基本財産及び運用財産の安全・確実な運用を図り、安定的な収入の確保に努めた。
- ② 管理費の支出について、可能な限り節減に努めた。
- ③ 事業評価実施要綱に基づき、漁業振興対策助成事業における実施事業の評価を実施し、評価結果をホームページにおいて公表した。また、実施事業についても精査に取り組んだ。
さらに、漁業振興対策助成事業の選考の公平性を保つため、助成対象の選考等に当たっては、理事長、常務理事、監事1名、外部委員の学識経験者2名の有識者で構成する事業審査委員会で公正に行い、その審査・選考結果を理事会に提案し、審議を経て承認を得た。
- ④ 公益財団法人へ移行に伴い、移行後の法人運営を円滑に推進するため、各種研修会・説明会等に積極的に職員を参加させた。

4 組織の状況

区分	平成24年度		平成25年度		平成26年度		前年度増減	増減理由
	県派遣	県〇B	県派遣	県〇B	県派遣	県〇B		
役員	常勤役員							
	非常勤役員	11		11		11		
	計	11		11		11		
職員	常勤職員	1		1		1		
	非常勤職員	1		1		1		
	臨時職員			1		1		
	計	2		3		3		
常勤職員の年代別構成	20代	30代	40代	50代	60代～	平均年齢	プロパー職員勤続年数	
	0	0	1	0	0	—	29年	
役員平均年収(千円)	—		職員平均年収(千円)		—		*常勤の職員が1名のため、当該個人の年齢及び年収が明らかになるおそれがあることから、平均年齢及び平均年収を記載していません。	

5 財務の状況

(単位:千円、%)

項目	平成23年度	平成24年度	平成25年度	財務分析指標	算出方法	平成23年度	平成24年度	平成25年度		
収益等状況	経常収益	28,096	28,042	28,011	正味財産比率	正味財産/資産計	99.14	98.72	98.73	
	経常費用	27,403	26,934	26,739	経常比率	経常収益/経常費用	102.53	104.11	104.76	
	経常増減額	693	1,108	1,272	総資産当期経常増減率	当期経常増減額/資産計	0.04	0.06	0.07	
	経常外増減額	0	0	0	県財政関与率	左のA～キの計/経常収益	0.00	0.00	0.00	
	当期一般正味財産増減額	693	1,108	1,272	補助金収入率	補助金収入/経常収益	0.00	0.00	0.00	
	一般正味財産期末残高	199,369	200,477	201,750	受託等収入率	受託等収入/経常収益	0.00	0.00	0.00	
	借入金残高	0	0	0	効索性	管理費比率	管理費/経常費用	37.24	6.07	6.52
県費等受入状況	補助金※ア				効索性	人件費比率	人件費/経常費用	29.31	30.14	37.32
	事業費				財務健全性	流動比率	流動資産/流動負債	475.07	354.54	334.24
	運営費(人件費含む)					借入金比率	借入金残高/資産計	0.00	0.00	0.00
	受託事業収入※イ				財務の状況についての法人の分析【法人コメント】					
	負担金 ※ウ				本法人の基本財産の運用については、安定的な収益を確保するため長期的な商品で運用をしていることから、収益・費用ともほぼ一定の水準となっている。 また、法人の運営に関しては、原則、収入に見合った規模での運営を前提に考えている。					
	交付金 ※エ									
	貸付金 ※オ									
	無利子借入金による利息軽減額※カ									
	減免額(土地・施設等使用料等)※キ									
	債務保証残高									
損失補償残高										

※上記カについては、長期プライムレートによる試算額

6 点検評価結果への対応状況

これまでの点検評価結果	対応状況【法人記入】	左に係る県所管課の意見・評価【県所管課記入】
1 助成事業の効果的・効率的実施(H24)	1. 事業審査委員会の機能を充実させ、審査の透明性・公平性をさらに高めるように努める。また、審査の透明性・公平性を高めるため「漁業振興対策助成事業の審査基準」を定めた。 2. 事業評価理事会で継続協議している2事業の統合等については、理事会等で協議の結果、事業統合等が難しい状況にあるため、1法人への助成を平成28年度で終了することとした。	助成事業の選考にあたっては、審査の透明性・公正性を保つために外部有識者等で構成する事業審査委員会で公正に実施している。
2 内部統制の充実・強化(H24)	1. 平成23年度から定期的に預金証書等の外部のチェック、決算書類等の監査及び会計処理に関する指導・相談を受けるため、税理士と会計顧問に係る業務委託契約を取り交わした。 また、今後も引き続き、内部統制の充実・強化に取り組んでいく。 2. 専任の職員1名の体制を見直し、組織体制の強化及び内部統制の充実を図る観点から臨時職員を増員した。	税理士等による会計処理の係る指導や県等の指導による内部統制の充実・強化に努めていることから、引き続き適正化に資するよう指導していく。

7 評点集計（経営評価指標）

評価項目	対象指標 評点数	法人評価	
		評点数	得点率
目的適合性	16	14	87.50
計画性	18	14	77.78
組織運営の健全性	37	22	59.46
経営の効率性	25	15	60.00
財務状況の健全性	19	19	100.00
合計	115	84	73.04

《評価項目：評価の視点》
「公社等」として、現時点において、当初の設立目的あるいは公共的・公益的目的に適合した事業を行っているか再確認が必要である。 ○法人が現在行っている事業と設立当初の目的等が適合しているか。 ○社会経済情勢等の変化に対応するため事業の検証・見直しが行われているか。
効率的な法人運営及び健全な経営を維持していくためには、経営資源、外部環境を把握し、計画的に運営していく必要がある。 ○自主的・自律的な法人運営を行うための中期的なビジョン(計画)を有しているか。 ○計画の達成状況等を検証し、適切・迅速に経営改善等が図られる仕組み(PDCAサイクル)となっているか。
法人の出資金等に県の公金が含まれていること等から、より効果的・効率的な組織・財務等における内部管理体制等の確立が求められる。 ○自律した事業主体として内部統制等が確立されているか。 ○持続可能な事業運営のために人材育成等が図られているか。
持続的・安定的に法人の運営を行うためには、経営環境の変化等に対応しつつ、不断の経営の効率化に努めていく必要がある。 ○経費の節減、収入確保等が図られているか。 ○人的・物的な経営資源が有効活用されているか。
持続的・安定的な法人の運営を行うためには、経営基盤を強化し、財務面での健全性を確保していく必要がある。 ○自主財源が確保され、安定的に収益が確保される健全な財務体質であるか。 ○借入金の規模が適正な水準であり、かつ、適正に返済されているか。

評価項目	法人の自己評価（経営概況、経営上の課題・対策等）	県所管課の評価	
		評価	意見等
目的適合性	本法人は、営利を目的としない漁業振興対策助成事業・救済助成事業等を実施し、不特定かつ多数のものの利益に寄与している。（設立の趣旨） 今後は、事業の精査に努め、効率的で効果的な事業を展開したい。	○	法人の目的である漁業被害の未然防止と操業の安全の確保並びに漁業振興のための助成事業を計画的に実施しており、引き続き効果的・効率的な事業運営に努めて欲しい。
計画性	計画的に事業を実施するため、基本財産の安定的な運用を図り、必要に応じて計画の見直しに努める。 今後は、計画と実績の差異分析とその改善を常に把握し、所管課と情報の共有を図りたい。	○	中期経営計画のもとで、適切かつ効率的な経営を履行することにより、良好な経営環境が維持できるものとする。今後も、実施事業の事業評価の充実を図り、経営の更なる健全化に努めて欲しい。
組織運営の健全性	内外の厳しい経済・財政状況に伴い、経営の合理化を図り、常勤職員1名、臨時職員1名、非常勤職員1名（無報酬）の組織体制で運営している。	○	持続可能な事業経営のため、常勤職員1名の後継者育成においても、力を入れていく必要があるものとする。
経営の効率性	本法人は、金利動向を踏まえた効率的な運用を行っている。 また、現在は、長期の低金利の状況にあるが、今後の金利の上昇等に備え、基本財産の再運用について、検討する必要がある。	○	基本財産及び運用財産の安全・確実な運用で経営基盤の強化を図り、管理費の支出についても、可能な限りの節減に努めている。引き続き、経営基盤の強化と経費節減に努めて欲しい。
財務状況の健全性	本法人は、基本財産等の運用益のみで運営しており、また、借入金や負債もなく、かつ、県等からの補助金等も交付されておらず、健全に経営している。 本法人の運営に当たっては、原則、収入の範囲内で運営することとしている。	◎	適正に運営されているものと見受けられる。基本財産の運用について、コンサルタント等からのアドバイスを得ながら、今後も、安全かつ有利な運営を行うこととして欲しい。

参考 財務情報

① 正味財産増減計算書

(単位:千円、%)

区分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度比	
一般正味財産の部	基本財産運用益	28,031	28,007	27,980	99.90	
		60	30	26	86.67	
	事業収益	受取補助金等				
		受取負担金				
		その他収益	5	5	5	100.00
		経常収益計	28,096	28,042	28,011	99.89
		経常費用	事業費	17,199	25,300	24,996
	管理費		10,204	1,634	1,743	106.67
	その他					
	(うち役員人件費)					
	(うち職員人件費)		8,033	8,117	9,979	122.94
	(うち減価償却費)	37	14	5	35.71	
経常費用計	27,403	26,934	26,739	99.28		
評価損益調整前当期経常増減額	693	1,108	1,272	114.80		
評価損益等						
当期経常増減額	693	1,108	1,272	114.80		
減の部	経常外収益					
	経常外費用					
	当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額	693	1,108	1,272	114.80		
一般正味財産期末残高	199,369	200,477	201,750	100.63		
指定正味財産の部	当期指定正味財産増減額					
	当期指定正味財産期末残高	1,500,000	1,500,000	1,500,000	100.00	
正味財産期末残高	1,699,369	1,700,477	1,701,750	100.07		

② 貸借対照表

(単位:千円、%)

区分		平成23年度	平成24年度	平成25年度	対前年度比
資産の部	流動資産	8,176	30,033	25,449	84.74
	固定資産	1,705,912	1,692,538	1,698,170	100.33
	(うち基本財産)	1,598,000	1,633,000	1,633,000	100.00
	(うち特定資産)	107,673	59,312	64,950	109.51
	(うちその他の固定資産)	239	226	220	97.35
資産合計	1,714,088	1,722,571	1,723,619	100.06	
負債の部	流動負債	1,721	8,471	7,614	89.88
	(うち短期借入金)				
	固定負債	12,998	13,623	14,255	104.64
	(うち長期借入金)				
負債合計	14,719	22,094	21,869	98.98	
(うち有利子負債の額)					
正味財産の部	指定正味財産	1,500,000	1,500,000	1,500,000	100.00
	(うち基本財産への充当額)	1,500,000	1,500,000	1,500,000	100.00
	(うち特定資産への充当額)				
	一般正味財産	199,369	200,477	201,750	100.63
	(うち基本財産への充当額)	98,000	133,000	133,000	100.00
(うち特定資産への充当額)	94,675	45,689	50,695	110.96	
正味財産合計	1,699,369	1,700,477	1,701,750	100.07	
負債及び正味財産合計	1,714,088	1,722,571	1,723,619	100.06	

③ 借入金の状況

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
前年度末借入金残高	県		
	金融機関		
	その他		
	計		
当該年度借入額(新規)	県		
	金融機関		
	その他		
	計		
当該年度元金償還額	県		
	金融機関		
	その他		
	計		
当該年度借入金残高	県		
	金融機関		
	その他		
	計		

④ 債務保証・損失補償の状況

区分	平成23年度	平成24年度	平成25年度
債務保証に係る債務残高	県		
	国		
	他の地方公共団体		
	計		
債務保証の内容			
損失補償に係る債務残高	県		
	国		
	他の地方公共団体		
	計		
損失補償の内容			